



国立民族学博物館
文化資源研究センター長

野林 厚志 さん

京都府精華町在住
奈良市出身

ご縁あり、県の文化財行政をお手伝いする機会を得た。幼い頃から「奈良は寺が多いな」程度のことを感じていたが、県内の文化財の数は私の予想をはるかに越えていた。それらを今の社会に活かし、後世に伝えていく行政に並ならぬ苦勞が伴うこともあらためて知った。

長期にわたる景気の閉塞感、グローバルな規模で蔓延する安全への不安、文系の学問は軽視され、「お金」にならない「こと」、「もの」は常に弱い立場に甘んじる。誰もが知る国宝や重要文化財でさえも厳しい環境にさらされるなか、地域にねざした文化財のすべてを継承していくのは簡単ではない。

こうした社会の価値観を変えるには、奈良のような多様な文化財が息づく地で、文化に対する豊かな感受性をもつ将来の世代を育てることが肝要だろう。科学技術大国もいいのだが、奈良県は豊かな文化資源を手がかりにして、文化立県、教育立県を目指せないものか。文化を学ぶ環境を整え、国内外から大学生や留学生をいにしえの都に誘うのである。

文化やそれを支える人間の尊さをともに学ぶ次世代の結節点としての奈良。「Naraで文化を学びます。」人生の多感な時期を過ごす合言葉になってほしいのである。

人権コーナー

～『好き嫌い』は、差別?!～

毎月11日は
人権を
確かめあう日



てんいち先生 ひかりちゃん

「Aちゃん、きらいやねん」
「なんで？」
「いややって言うてんのに、何回もおんなじことするから。」
よくある会話ですよ。

ところで、そもそも「好き嫌い」は差別でしょうか？

「好き嫌い」は、誰もが持っている感情で、一概に差別とはいえないと思いますが、「嫌い」という感情は、時として差別に結びつきやすい危険性をはらんでいます。

人はだれもが、いろんな側面を持っています。ですから、相手を理解し尊重するためにその人の「素敵だな」「いいな」と思う面を見つけることが、より良い関係を育むことにつながるのでは？と思うのです。

「嫌い」という感情を行動に表す前に、互いの立場を認め合い、「好き」という面を増やす努力をすることが、心豊かな人生への近道になるのではないのでしょうか。

さて、こんなことを心の片隅に留めながら、先ほどの会話、あなたなら、どんなふうにつづけますか？

今月の標語

一言で 相手の未来 変わるかも

橿原市立 耳成西小学校 6年 楠田 勝弘さん

今月のポスター

桜井市立 緋向小学校 6年
福塚 悠さん



クイズ&プレゼント

○○○○○に当てはまる文字を教えてください。

Q 循環型社会をつくるためのキーワードの3Rとは、リユース・リサイクルとあと一つは？

A ○○○○○
ヒントは7ページ

12月号の答えは“AFIC”でした。
応募総数370件。

正解者の中から抽選で
飛鳥カレーセット(5食入)
を5名の方にプレゼント!

※個人情報は、プレゼント発送以外には利用いたしません。
締め切りは2月29日(消印有効)



ハガキに答えと、住所、氏名、年齢、電話番号、「県民だより奈良」の感想(良かったコーナー・取り上げてほしい話題・改善点など)を記入して、〒630-8501(住所記入不要)奈良県広報広聴課へ。HP(www.pref.nara.jp/30222.htm)からも2/1以降応募できます。